

早良区少年愛護パトロール員だより

～安全・安心の地域づくりに向けて、パトロールと声かけをお願いします～

平成30年7月9日/編集・発行 地域支援課



平成30年度 少年愛護パトロール員 委嘱式・研修会

1. 委嘱式

平成30年6月6日(水)、早良市民センターで「平成30年度早良区少年愛護パトロール員委嘱式・研修会」が開催されました。少年愛護パトロール員を代表いたしまして、入部校区の 東中園 祐美子 様に委嘱状が交付されました。

研修会では、犯罪が起こりやすい“入りやすく、見えにくい”場所、いわゆる「ホットスポット」に関するDVDを視聴し、パトロール活動の校区活動例として、小田部校区「だいこんの会」会長 持田 拓児 様に、青色パトロールカーによる校区巡回の取り組みを紹介していただきました。



(委嘱状交付)



(小田部校区 だいこんの会の活動説明)

2. DVD視聴 ～登下校は犯罪の“ホットスポット”にご注意を～

下記のような犯罪が起こりやすい“入りやすく、見えにくい”場所をホットスポットと言います。

- ・ 高い塀が並んでいる道（物理的に「見えにくい場所」）
- ・ 落書きが多い場所（心理的に「見えにくい場所」）
- ・ 空き地。公園（物理的に「入りやすく見えにくい場所」）
- ・ 人通りが多い場所（心理的に「人に対する関心が薄れる場所」）

【DVDを視聴した感想】

- ・ 何気ない通学路も「ホットスポット」を意識して見ると全く違って見えることがわかり、大変勉強になりました。気を付けて見て回りたいです。
- ・ 「ホットスポット」の地図をつくらうかと思えます。
- ・ ホットスポットという名称自体知りませんでした。入りやすいところもホットスポットになるという感覚も持っていなかった、研修会に出席できて良かったです。
- ・ 身近な場所にあるかもしれないホットスポットを子どもと確認しながら歩いてみようと思います。
- ・ ホットスポットを私もパトロール員の機会に自分の足で歩いて見つけようと思う。

3. 「だいこんの会」のパトロール活動説明

結成されたのは、平成13年4月。児童が下校途中に車に連れ込まれそうになったのがきっかけでした。当時は、痴漢や子どもたちが金品を脅される事件が頻発、平成13年の街頭犯罪件数は約250件を数えていました。しかし、長年にわたる毎日の防犯活動により平成28年には、21件に激減しています。 「マイタウン西新 2月号より」

【感想】

- 各校区でホットスポットや危ない場所について地図を作って配ったらいいな、と思いました。
- 小田部「だいこんの会」の活動は知っていましたが、活動の詳細（毎日実施されている事）を聴いて、隣接校区として、熱意とメンバー確保の努力に大変驚き、そして感心しました。

4. 早良区少年愛護パトロール員の役割、業務説明についての感想

- 「良いこと」を見かけた場合も報告（記入）できることを本日知りました。
- 具体的な内容や他の校区の活動事例などを聴けて業務内容が具現化できてよかったです。

5. 説明全体の感想

- パトロールの必要性は日々感じています。効果も出てきていますし、何より子どもたちへの声かけ等お互い顔の分かる安心できる校区にしていければと思います。
- どの話も参考になるお話で、これからの地域活動に活かしていきたい。
- 子どもたちの安全のため、これから1年間頑張ってみようと思います。皆が「笑顔になれる」校区になって欲しいです。

6. 講演会 「いいんだよ」は魔法のことば ～寛容の精神が醸成される社会～

(1) 講師

立花高等学校 齋藤 真人 校長先生

「いいんだよ」の魔法の言葉で不登校の自立支援の教育方針のもと、心の癒しに重点を置いた教育の実践で、心の拠り所を求める子どもや親たちから支持されています。

(2) 内 用

不登校自立支援に取り組む立花高校の理念は、すべての生徒たちから教えてもらった大切な「大人への警鐘」なのかもしれません、子どもたちが安心して個性を發揮できるよう、大人たちが「おおらか」であること、そのために必要な「共感的理解」について共に考えましょう。



(講演の様子)

(3) 感想

- “出来る”という前提を捨て、“出来ない(0点スタート)”という前提に立てば、子どもがいかに頑張っているか見えますよ。出来ないことを嘆くより、出来ることを認めてみよう。先生の講演は初めて聴きましたが、とてもためになりました。自分の子どもだけでなく地域、よそのお子さんにも同じように接していけたらいいなと思いました。立花高等学校は素敵だなと思います。
- 立花高校の先生方の思いやり、不登校のお子さんの親の心情、受験時のやり取りに涙が出ました。登校する事を当たり前と思わず、頑張っている子ども達に、言葉や態度でエールを送ることができる大人になりたい。多くの可能性や優しさをもっている子どもを大切に育み応援していきたいです。
- もっと、自分と子どもたちの頑張りを認められる母親になりたいと思います。来てよかったです。
- とても楽しく、勉強になるお話でした。涙がでました。自分の子どもたちに“頑張れ、頑張れ”の言葉しか言ってなかったことに気付きました。学校に行くことも当たり前だと思っていました。
- 笑いあり、涙ありのあつという間の1時間でした。子育てに必死になりすぎて、子どもに多くのことを求めすぎているように思います。生まれてきてくれた時の嬉しい気持ちをもう一度思い出し「そのままでもいいんだよ」とたくさん認めてあげたいと思いました。・我が家にも頑張っている子どもがいます。満足な評価はいただけませんが、この子にしかできない役割があることを忘れず、ゆっくり見守ってあげるように再度、私の考えを変えていきたいです。
- なぜか涙があふれました。まずは今日から、自分の子どもたちをほめたたえようと思います。
- 目からウロコの話で共感できました。自分のこととして置き換え、新たに頑張ろうと思える講演でした。
- 講演を聞き、子どもたちに普段接している態度・言葉遣いを振り返る良いきっかけとなりました。
- 涙が止まりませんでした。大人側の視点や捉え方を変えて子どもたちと接したいと思います。
- 育児をしていると、自分も変わらなければ、と考えますが、なかなか上手くできません。私も子どもと共に成長していきたいです。
- 自分の子どもも学校に行きたくないと言っていた時期があり、子どもと一緒に考え、話し合った上で転校しました。今は元気に新しい学校に通っています。今考えると子どもが行きたくない理由や自分の気持ちをちゃんと話してくれたので、本当に良かったと思いますが、振り返ると子どもに無理強いしていた事もあり反省しています。今後できるだけ心を柔軟にして、子どもの心に寄り添ってあげたいと思います。
- 中1の2学期より体調を崩し、スポーツで怪我也続き、手術・入院もあって、全てにおいて、おちてしまっている息子の事で悩んでいるところに、今日の先生の言葉はとても響きました。本人が悩み、落ち込んでいる時も、私が優しく悩みを受け止められるよう、少しずつ変わりたいと思います。
- 思春期の子どもを持つ親として自身の子どものどう声をかけたらいいのか、そのことを考えながら聴かせてもらいました。出来て当たり前と思い、ダメなことばかりに目が行っていたなと痛感しています。
- 「逃がしてあげる勇気」もっと早く講演を聞きたかったです。娘が小学6年生の1月より不登校になりました。学校の先生にも家に来てもらいみんなで話し合い、週2回程度学校に行きました。しかし、ある時期泣きじゃくり、過呼吸になり、それを見て卒業式まで休ませることにしました。娘には、不登校で何が悪いと伝え、いろいろな話をするようになりました。現在は行ってきますと言って毎日通学しています。
- 次女が発達障害です。この子のおかげで、私も人間的に成長させてもらっています。当たり前なんてない。子どもたちは出来ることを頑張っています。深いお話を聞かせていただきありがとうございました。